

“国民主権揺らぐ”“学ぶ権利守れ”

学術会議人事介入に抗議 高校生・大学生の訴えから



「学問の自由を守れ」と声を上げる学生ら＝11月30日、首相官邸前

有志の高校生と大学生が11月30日、首相官邸前で菅義偉首相による日本学術会議への人事介入に対する抗議を行いました。任命拒否の不当性や学問の自由に対する思いが語られました。

法律を学ぶ大学1年生は、菅首相が任命拒否の理由に持ち出している、公務員の選定・罷免権を定めた憲法15条は国民固有の権利であるとして、「首相の一方的な任命拒否の根拠にはならない」と指摘しました。

国民の権利をこれ以上壊さないでほしいと話し、「6名の速やかな任命拒否の撤回を求めます」と語りました。

私立大学2年生は、菅首相が任命を拒否した理由の一つに男女比率を挙げているが、女性比率は増えて30%を超えるなど多様性は増していると指摘。「まずは自分の党の女性比率を上げたり、女性蔑視の発言をしている自民党の議員に責任を取らせるのが先です」と話し、任命拒否の不当性を訴えました。

高校3年生は、菅首相の人事介入のような行動がエスカレートしていけば、「学問の自由という国民の権利が侵害され、国民主権という日本の根底そのものが揺らぎかねません」と指摘しました。

学校教育で習う、日本が行った戦争や虐殺など政府に不都合な歴史的事実がかき消される恐れもあるとして、「若者が声を上げていくことが、私たちの未来や学ぶ権利を守ることにつながります」と呼びかけました。

私立大学1年生は、日本学術会議の問題は学者や一部の人間だけに関係する問題ではなく、国民全員の問題だと強調しました。

菅政権が自らの邪魔になりそうな人を排除するため、任命権の拡大解釈によって学者が攻撃されているとして「このままでは次に攻撃されるのはあなたです。いま抗議をしましょう。ともに諦めずに声を上げよう」と訴えました。